

酒史学会 30年の歩み

平成 26 年 2 月

酒 史 学 会

30年を振り返って

酒史学会 会長 兒玉 徹

酒史学会第5回（2006年）の総会において選任されて以来、会長を仰せつかっておりますが、私は初代蓑田泰治会長とのご縁もあり、前身である日本酒造史学会時代から会員としての在籍期間は長いのですが、自身では応用微生物学には携わっていたものの、日本酒造りに関わった経験も、酒類の歴史の研究に携わったこともなかった人間がこのような立場に長く留まっているうえに30年を振り返るなどということは甚だ僭越であり、まことに汗顔の至りですが、お許しを願いたいと存じます。

日本酒造史研究会の初代会長を務められた蓑田泰治先生は、東京大学農学部農芸化学科微生物利用学教室の私の先代の教授であり、当時は定年間近で多忙を極めておられたにも拘わらず酒造史研究会の立ち上げに奔走しておられたことは、同教室で助教授を務めていた者として認識はしていましたが、それをお手伝いする能力も時間もなかったことと、ご遺志を十分に継げなかったことは申し訳なく思っております。

ともかく、わが国の日本酒研究の泰斗である坂口謹一郎先生や日本酒造組合中央会、日本酒センター、日本醸造協会などの醸造関係者ならびに各大学で経済史、商業史や歴史学を専門にされていた研究者が分野を超えて結集され、それらの方々の多大なご尽力によって当時としては学際的でユニークな日本酒造史研究会として設立されて以来、本学会が日本酒造史学会、酒史学会と名称を変えながらも30年もの間継続されてきたことは、それらの諸先輩方の志向された方向性と必ずしも一致しない部分はあるにせよ、重要な意味をもつものと考えております。

本冊子に再録されている「日本酒造史研究会設立趣意書」および設立初期の理事会の議事録を改めて拝見しますと、設立当時の関係者の方々の最先端バイオテクノロジーの基礎としての日本酒造りの技術への高揚した自負の精神がうかがわれるとともに、貴重な日本酒造史料の散逸への懸念が極めて憂慮すべき事態になっていたことがひしひしと伝わってきます。また、初期の議事録等によれば、研究会（のち学会）の目標には歴史的史料の発掘・蒐集のみならず、着手には至らなかったようですが、史料内容をデジタル化するという構想もあったようです。

会誌「酒史研究」の掲載内容や講演会記録等を見ますと、研究会（学会）設立の当初の目的に沿って、約20年間にわたり散逸寸前の多くの貴重な史料が取り上げられ、解説ならびに翻刻が行われております。これにより、それまで存在は知られていたものの利用困難であった史料を研究者の活用に供し、学界に貢献したことで研究会が設立された

所期の目的は、この期間にある程度達成されたものと考えられます。この間に会長を務められた蓑田先生、野白先生には深甚なる謝意を表したいと存じます。また、長期にわたって、日本酒に関する各種文献・史料の発掘・提供にご協力いただいた酒造会社、ならびに図書館等関連機関に対し、厚くお礼申しあげます。

一方で20年を経て史料の蒐集が一段落することになり、次第に投稿される原稿数が減少したためか会誌の発行が滞りがちになり、2000年代前半を境に酒造史の解説と翻刻が会誌から姿を消すとともに、『酒史学会』への改称の趣旨にありますように、活動の焦点を酒造りを中心とする「酒造史」のみならず、民衆の生活に密着した酒の文化史、社会史を包含する「民俗と酒」にも当てた学会へと脱皮することになりました。

ただ不運なことに、第二代野白喜久雄会長のご退任間近の時期に、学会事務局を委託していた日本醸造協会と一部理事との間にトラブルが生じたこともあって、少なからず醸造業界からの会員離れが起こり、学会運営上の危機とも言える状態になりました。

当時から日本醸造協会の傘下にある日本醸造学会会長職にあったこともあり、私はそのような状況下で本学会の会長をお引き受けしたわけですが、当時その任にあった役員をはじめ新たに加わって頂いた役員全員の献身的なご協力によるとともに、時間の経過もあり今では（一財）日本醸造協会との間の蟠りもほぼ解消していただき、「酒史学会」が指向する新たな方向へ踏み出すことが出来つつあると信じております。

今後とも本学会を日本ならびに世界酒造史はもちろん、世界の酒の文化史、民俗史という広汎な分野を包括し、他に類を見ない醸造研究者ならびに歴史研究者からなる異分野融合型の学会として発展させて行くべく努力する所存です。とくに本学会での研究発表を今まで以上に学界において評価の高いものとし、若い研究者の方々が進んで入会を希望するようになることを常に念願しておりますので、会員の皆様のさらなるご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

（平成26年2月8日）

酒史学会略年表

- ・昭和 58 (1983) 年 11 月 17 日 日本酒造史研究会設立 (会長・蓑田泰治氏～1988 年 5 月)
- ・昭和 59 (1984) 年 6 月 13 日 日本酒造史研究会設立総会・第 1 回講演会開催。『酒史研究』第 1 号発行。
- ・昭和 59 (1984) 年 7 月～9 月 酒造関連史料等の保有状況に関するアンケート調査[*]実施。
- ・昭和 60 (1985) 年 4 月第 2 回講演会、同年 10 月第 3 回講演会。以後、平成 14 年 (2002) 年 5 月の第 36 回講演会まで、18 年間にわたり年 2 回の講演会を東京とその他地域で交互に開催。
- ・昭和 63 (1988) 5 月 7 日 日本酒造史学会に改称。会長に野白喜久雄氏就任 (～2002 年 4 月)。
- ・平成 14 (2002) 年 11 月 16 日 酒史学会に改称、酒史学会第 1 回大会。『酒史ニュースレター』第 1 号発行。
- ・平成 18 (2006) 年 12 月 第 5 回大会総会。会長に兒玉徹氏就任。
- ・平成 25 (2013) 年 10 月 『酒史研究』第 29 号発行、12 月『酒史ニュースレター』第 20 号発行。
- ・平成 26 (2014) 年 2 月 8－9 日 酒史学会第 12 回大会開催。

[*] このアンケート調査は、日本酒造組合中央会の協力を得て、各都道府県酒造組合 (連合会) を通じて所属組合員企業に調査票を配布し、回答票を回収したものである。調査票は個別企業向けと組合 (連合会) 向けの 2 種類が用意された。その回収と集計結果については『酒史研究』第 2 号に報告されているが、その概要は以下の通り。

- ・個別企業の回答数 : 587 社。
- ・都道府県組合 (連合会) の回答数 : 25 県、40 組合。
- ・史料等を保有する企業 : 文書 95、帳簿 78、道具 73、パンフ 41、写真 36 など。
- ・企業における社史等の 2 次資料、資料館等の整備状況 : 社史 22、伝記 12、その他刊行物 (組合史、県史など) 44、資料室・記念館等 27、など。

日本酒造史研究会設立趣意書

昭和 59 年 11 月 17 日

日本酒造史研究会

酒の歴史は、人間の歴史であり、世界各地で様々のすぐれた銘酒が生みだされており、日本酒もその一つとして位置づけられるものである。

酒は人間社会に欠かせないものである。従って、この酒を対象にした学問は、自然・人文・社会の諸科学を総合した学際的な「日本酒学」とよべる。しかもこの「日本酒学」は、世界の中の日本酒を対象とすることで、優れて国際的な学問でもある。

なかでも最先端技術としてのバイオテクノロジーの領域における世界に誇るべき数多くの成果は、長い優れた伝統をもつ日本酒造技術から醸成されたもので、これの歴史的研究は将来の技術に関する明確な展望を得るためには絶対に欠かせない。と同時に国際的に高い関心をもたれている日本酒に対する正しい理解を深めさせ、豊かなものとするとは言うまでもない。

このような事情にもかかわらず、貴重な史料が急速に散逸し、さらには消滅しつつあるとき、日本酒造史の研究を関係者が協力し、精力的にしかも体系的に実施することは、いまや緊要な社会的要請になってきているばかりか、今日直ちに調査研究を開始しないならば、その時機を失う恐れすらある。

われわれは、これらの諸点に十二分に配慮しながら、なかでも日本酒造史に特別の関心をもって、この分野の調査研究を推進し、その成果を社会に還元し、貢献したいと念願し、ここに日本酒造史研究会を設立する。

『酒史学会』への改称の趣旨

酒史学会は、散逸する史料を収集し、その翻刻による研究という歴史研究の基本に立脚した活動を開始し、成果の社会への還元による貢献を事業目的としました。

20 年間にわたる「日本酒造史学会」としての活動をふまえ、酒造史から酒の歴史一般へと学会活動の幅を広げ、さらには酒の文化史や社会史、風俗や習俗といった民俗と酒について、いわば酒の「造り」から「生活」の酒、「民衆」の酒へと、間口を広げていくことで、今日の要請に応えるように努めています。(後略)

(平成 14 (2002) 年 11 月 16 日理事会資料「酒史学会入会案内書案」より)

『酒史研究』 総目次

日本酒造史研究会創立（昭和 59（1984）年 6 月 13 日）

■第 1 号(昭和 59 年 6 月発行)

近世酒造史の研究と課題 柚木 学

芭蕉七部集の酒の句 加藤百一

「宝塚地方」における近世酒造業の盛衰について 若林 泰

近代醸造技術教育の一断面—坪井仙太郎と大阪高等工業学校醸造科— 鎌谷親善

明治初期における日本醸造法の欧米への紹介 野白喜久雄

■第 2 号（昭和 60 年 4 月発行）

高木家文書「酒銘」による京都酒造業についての考察（その I） 山下 勝・山下美智子

酒造検査制度成立の歴史的意義 藤原隆男

酒造り神事 加藤百一

菊正宗酒造記念館 森 太郎

日本酒造史に関する博物館ならびに史料—アンケート調査結果の報告— 日本酒造史研究会

オスカー・コルシェルトの「酒について」 野白喜久雄

■第 3 号（昭和 60(1985)年 10 月発行）

幕末・明治における灘酒造業経営の一考察 本城正徳

高木家文書「酒銘」による京都酒造業についての考察（その II） 山下 勝・山下美智子

コルシェルトと防腐剤について 鎌谷親善

石鳥谷町立歴史民俗資料館 同町教育委員会

■第 4 号（昭和 61 年 8 月発行）

尾張国知多郡酒造業と尾張藩の財政政策 篠田寿夫

酒屋の看板 天野 武

造酒得度記〈史料〉 鎌谷親善

■第 5 号（昭和 62 年 5 月発行）

酒質の歴史 中村欽一

本格焼酎形成期にみられる清酒醸造技術の影響 菅間誠之助

寒造酒屋永代記伝・悪酒直し様調法記伝〈史料〉 柚木 学

伊丹万願寺屋酒醤油造伝〈史料〉 鎌谷親善

日本酒造史学会に改称（昭和 63（1988）5 月 7 日）

■第 6 号（昭和 63 年 9 月発行）

大国神社酒造り絵馬 天野 武
東西の酵母文化 秋山裕一
酒造用精米機の歴史 佐竹利彦
酒直千代伝法〈史料〉 鎌谷親善
壺子相伝 造酒口伝〈史料〉 鎌谷親善
地租ヲ減削シテ酒類官売ヲ行フ説〈史料〉 柚木 学

■第 7 号（平成元年 6 月発行）

僧坊酒 加藤百一
種麴今昔物語 村井豊三
蔭山公雄氏と山邑家のことども 森 太郎
榊原酒造の醸造全図 山田 晃
諸白酒寒造覚〈史料〉 渡辺則文
南都諸白流・申立八兵衛家伝かし本 酒造り書〈史料〉 鎌谷親善
池田酒家用秘録〈史料〉 柚木 学

■第 8 号（平成 2 年 8 月発行）

童蒙酒造記—その翻刻と解説〈史料〉 鎌谷親善・加藤百一

■第 9 号（平成 3 年 6 月発行）

下り酒雑稿 加藤百一
酒の足持と頭司褒美帳について 森 太郎
中国醸造酒の酒母生産技術の進展 包 啓安
東谷・松尾神社奉納酒作り絵馬 天野 武
伊丹満願寺屋伝—解説と翻刻〈史料〉— 柚木 学

■第 10 号（平成 4 年 9 月発行）

多紀郡醸造稼業改良組合筆記・「醸酒法講習会」—その復刻と解説— 森 太郎

■第 11 号（平成 5 年 6 月発行）

江戸時代の信州酒造業（1） 吉田 元
「スサノヲノミコトの酒」の推理 大塚謙一
速醸の父・江田鎌治郎先生伝 月岡 本
摂州伊丹満願寺屋伝—その解説と翻刻〈史料〉— 加藤百一・森 太郎・鎌谷親善
『西之宮土産』の翻刻と紹介〈史料〉 古賀醇一郎・加藤百一

■第12号（平成6年9月発行）

オスカー・コルシェルトの「酒の製造について」 藤原隆男
越後酒男の関東進出と越後屋惣七について 中村豊次郎
茨城の酒（1）—その記録から— 風間 雍
江戸時代の信州酒造業（2） 吉田 元
日本統治下の台湾における酒専売の成立と展開 平井廣一
「大正十一年度辻村商店営業案内」の紹介〈史料〉 森 太郎

■第13号（平成7年11月発行）

「御酒之日記」について 鎌谷親善
「佐竹文書」の酒作日記年代考 今枝愛真
御酒之日記—その解説と翻刻〈史料〉— 鎌谷親善・加藤百一
茨城の酒（2）—その記録から— 風間 雍
西宮市立図書館所蔵酒造書〈史料〉の翻刻について 鎌谷親善
「酒製方菓製秘書」〈史料〉の解説と翻刻 鎌谷親善
支那産「麴」に就いて 山崎百治

■第14号（平成9年3月発行）

江戸積み酒造家・小西家と出店の創設期 石川道子
「酒造手引草、伊丹酒造諸式之控」について—「日本山海名産図会」との関連において— 鎌谷親善
小西新右衛門家「酒永代覚帳」について 鎌谷親善
「酒造手引草全」の解説と翻刻 鎌谷親善・石川道子

■第15号（平成10年3月発行）

近世日本の酒造技術—伊丹における酒造法を中心に— 鎌谷親善
「寒造酒屋永代記伝」の解説と翻刻 鎌谷親善・石川道子
「寒元酒伝記」の解説と翻刻 鎌谷親善・石川道子

■第16号（平成12年2月発行）

酒造用具としての桶と樽 鎌谷親善
からさけ覚書 加藤百一
周代の酒造技術 包 啓安
天保期灘の千石蔵〈原典翻刻〉 鎌谷親善

■第17号（平成13年2月発行）

鎌倉武士と酒 加藤百一
創製期の南部諸白 鎌谷親善

〈翻刻〉十返舎一九『手製集酒編 手造酒法』『手造気利酒』

〈翻刻〉「酒造仕事順立」

■第18号（平成14年2月発行）

元禄期の酒造法の検討—『本朝食鑑』と『和漢三才図会』を中心に— 鎌谷親善

合成酒の歴史 大森大陸

大名家と酒—臼杵藩稲葉家の「奥日記」に現れた酒 江後廸子

〈翻刻〉「明治十七年度・明治十八年度水車酒造踏米計算記(帳)」

〈翻刻〉小西新右衛門家「酒永代覚帳」(2) について

酒史学会に改称（平成14（2002）年11月16日）

■第19号（平成15年3月発行）

近江屋吉左衛門家文書による江戸時代種麹屋業に関する考察 山下 勝・山下美智子

酒嗜と酒器 寺岡武彦

〈史料〉小西新右衛門家「酒永代覚帳」(3) 鎌谷親善

■第20号（平成16年3月発行）

微生物の視点から麹酒を考える 林田晋策・木下玲子

粕取焼酎 山下 勝

〈翻刻〉近江屋吉左衛門家文書 山下 勝・山下美智子

〈翻刻〉津国屋「永代帳」 和島恭仁雄

〈翻刻〉「酒造米手引」の翻刻と解説 鎌谷親善

■第21号（平成17年3月発行）

穀芽をもちいた酒について 寺本祐司・上田誠之助

近江屋家文書による江戸時代種麹屋業に関する考察（Ⅱ） 山下 勝・山下美智子

ボルドーは如何にして銘醸地になったか——ボルドーワインの歴史—— 安蔵光弘

日本におけるビールの歴史と世界における醸造の現況 井上 喬

〈翻刻〉津国屋「永代帳」その二 鎌谷親善

■第22号（平成17年10月発行）

大正後期～昭和初期の北関東地方における産地間競争の激化と越後杜氏の採用動向 青木隆浩

オスカー・コンシュルトのドイツ帰国後の活動とツィタウでの化学工場の建設 藤原隆男

縄文時代における果実酒酒造の可能性 辻 誠一郎

■第23号（平成18年7月発行）

岐阜県白川村のどぶろく祭り 南 良則

メキシコのテキーラ 伊藤伸幸

「東亞醱酵化學論功」に記載されたインド・イスラム圏の穀芽酒について 寺本祐司・上田誠之助
大正期東北地方の濁酒密造と密造防止策 藤原隆男

■ 第24号（平成20年2月発行）

江戸のブドウとブドウ酒 原田信男

月桂冠株式会社

～伝統的家業を近代化した第11代当主の企業家精神～ 原澤謹吾
テキーラとメキシコ 堀田俊一

■ 第25号（平成21年2月発行）

日本の焼酎—その税制と技術史について 西谷尚道

故坂口謹一郎氏の収集資料とその利用について 青木隆浩

考古学と民族植物学における酒史研究の展望 谷川章雄・辻 誠一郎

■ 第26号（平成22年10月発行）

明治中期の肥田・高峰・高山三人の心温まる人間関係と醸造試験所の設立 秋山裕一

中世の酒米—『田植草紙』と初穂信仰 伊藤善資

小西酒造株式会社

～「伊丹諸白」発祥の名醸地を代表する老舗酒造蔵～ 原澤謹吾
茨城の地酒造り—戦後復興期の回想（前編） 風間 雍

■ 第27号（平成23年9月発行）

ハチミツ酒の歴史，現状と未来 寺本祐司

辰馬本家酒造株式会社

～宮水と廻船業が育んだ灘の銘醸蔵～ 原澤謹吾
茨城の地酒造り—戦後復興期の回想（後編） 風間 雍

■ 第28号（平成24年9月発行）

生酏 百年の歩み 溝口晴彦

古代エジプトのビール：醸造方法とその研究をめぐって 高宮いづみ

株式会社福光屋

～「伝統は革新の連続」を貫く北陸酒造業の雄～ 原澤謹吾

■ 第29号（平成25年10月発行）

ウイスキーの分化と発展

—アイリッシュウイスキーとスコッチウイスキー— 三鍋昌春

ワインの医食文化—フランスの事例から— 蔵持不三也

日本ウイスキー90年の歴史 河井敬司

賀茂鶴と白牡丹

～銘醸地・西条を代表する二つの老舗蔵～ 原澤謹吾

日本酒造史研究会・日本酒造史学会開催の講演会記録
昭和 59 (1984) 年～平成 13 (2001) 年

第 1 回 昭和 59 (1984) 年 6 月 13 日

会場：東京都 日本酒造会館

加藤 百一「酒と神々」

柚木 学「江戸時代の酒造り」

第 2 回 昭和 60 (1985) 年 4 月 18 日

会場：大阪市 大阪府民信用組合ホール

森 太郎「酒器の変遷」

日下 讓「銘水を科学する」

田辺 昭三「平安造酒司の周辺」

柚木 学「樽回船」

第 3 回 昭和 60 (1985) 年 10 月 19 日

会場：東京都 日本酒造会館

天野 武「酒の看板」

鎌谷 親善「コルシエルトと日本技術の近代化」

菅間誠之助「清酒と焼酎のはざま」

第 4 回 昭和 61 (1986) 年 6 月 6 日

会場：東京都 北区会館

小泉 武夫「木灰と日本酒の醸造」

中村 欽一「吟醸酒の歴史」

野白喜久雄「明治初期の酒造法」

第 5 回 昭和 61 (1986) 年 10 月 24 日

会場：名古屋市 愛知県中小企業センター

永谷 正治「酒の狂歌」

篠田 寿夫「知多酒の盛衰」

森下 肇「亀甲鶴と酒造奴」

山下 勝「江戸・明治期の東海地方の地酒」

第 6 回 昭和 62 (1987) 年 5 月 29 日

会場：東京都 日本酒センター

秋山 裕一「東西の酵母文化」

村井 豊三「種麴今昔物語」

川島 宏「日本酒の歴史・日本酒の出来るまで」(VTR)

第7回 昭和62(1987)年11月6日

会場：東広島市 ホテルつるかめ

飯田 米秋「芸州藩における米と酒」

迫田 積「三浦仙三郎翁の生涯」

佐竹 利彦「酒造用精米機の歴史」

第8回 昭和63(1988)年5月7日

会場：京都市 思文閣会館

天野 武「南部杜氏」(VTR)

川嶋 将正「中世京都の酒づくり」

宗田 一「酒と薬」

第9回 昭和63(1988)年10月28日

会場：東京都 日本酒センター

天野 武「南部杜氏」(VTR)

加藤 百一「僧坊酒」

武内 勉「杜氏のくらしとうた」

栗山 一秀「伏見の酒」

第10回 平成元(1989)年5月27日

会場：東京都 日本酒センター

鈴木 昌治「稲麴と日本の酒造り」

秋山 裕一「日本酒の技術」

鎌谷 親善「醸造試験所設立前後」

第11回 平成元(1989)年10月21日

会場：金沢市 石川県教育自治会館

谷口 正幸「加賀菊酒考」

松浦 五郎「七尾酒考」

今村 充夫「古代信仰と酒・薬」

第12回 平成2(1990)年5月24日

会場：西宮市 白鹿記念酒造博物館

「山田錦物語」(VTR)

森 太郎「酒の足持ちと杜氏褒美帳」

済川 要「宮水の話」

吉村 博臣「喜十郎邸とその酒蔵」

第13回 平成2(1990)年10月12日

会場：東京都 日本酒センター

中村 隆英「酒造業の数量史」

池上 和夫「酒税について」

藤原 隆男「G. ワグネルとO. コルシエルトの酒造観」

第14回 平成3(1991)年6月7日

会場：東京都 日本酒センター

松下 幸子「料理と酒」

芳賀 登「江戸の酒と料理」

吉澤 淑「現代の飲酒事情」

第15回 平成3(1991)年11月20日

会場：新潟市 ミナミプラザホテル

嶋 悌司「木桶からタンクへ」

月岡 本「江田鎌治郎先生」

中村豊次郎「越後杜氏発生のころ」

加藤 百一「日本酒のあけぼの」

第16回 平成4(1992)年6月5日

会場：東京都 日本酒センター

神崎 宣武「カミと酒」

大塚 謙一「中国・成都市、国際酒文化学術討論会について」

外池 良三「醤油・近代科学とのかかわり」

第17回 平成4(1992)年10月27日

会場：伊丹市 小西酒造(株)富士ホール

和島恭二雄「伊丹の歴史とその文化的背景」

柚木 学「近世伊丹の江戸積酒造業の展開」

第18回 平成5(1993)年6月15日

会場：東京都 日本酒センター

佐久間好雄「江戸時代の常陸」

丸山 清明「米の歴史と酒米」

風間 雍「茨城の酒ーその記録からー」

第19回 平成5(1993)年11月12日

会場：京都市 月桂冠(株)

月桂冠(株)「日本の酒づくり・世界の中の日本の酒」(VTR)

吉田 元「江戸初期における上方と東北の酒」

鎌谷 親善「江戸時代に於ける酒造書」

野白喜久雄「明治初期のお雇い外国人教師のみた日本の酒造技術」

井上 満郎「渡来人と京都の酒」

第20回 平成6(1994)年6月30日

会場：東京都 日本酒センター

武藤 浩「日本杜氏組合のことども」

加藤 百一「博多のねり酒」

鎌谷 親善「酒書にみる酒造りー「御酒之日記」・『童蒙酒造記』ー」

第21回 平成6(1994)年10月4日

会場：鶴岡市国際交流センター・アマゾン民族館

本間 勝喜「庄内天領の酒造業ー大山市を中心に」

菅 洋「庄内の米と米造り」

山口 孝子「ブラジルの口嚙み酒」

第22回 平成7(1995)年8月3日

会場：東京都 日本酒センター

鎌谷 親善「元禄期の酒造りー小西家「酒永代覚帳」と酒造書」

藤原 隆男「アトキンソンとコルシエルトー旧跡を訪ねてー」

第23回 平成7(1995)年10月19日

会場：長野市 長野ロイヤルホテル

小栗 勇「長野県酒造概況の変遷」

黒沢 一男「日本最高標高の酒造り」

塩入 隆「長野県史」

第24回 平成8(1996)年6月27日

会場：東京都 日本酒センター

吉田 集而「口嚙み酒の起源」

鎌谷 親善「伊丹の酒」

第25回 平成8(1996)年11月19日

会場：奈良市 平城宮跡資料館

山中 信介「赤米タンニンを用いた着色酒類の製造－奈良地場食品産業の歴史－」

寺崎 保広「平城宮跡発掘調査－特に酒関係の発掘資料について」

第26回 平成9（1997）年6月5日

会場：東京都 日本酒センター

花井 四郎「日本酒の来た道」

秋山 裕一「甗（こしき）考」

鎌谷 親善「御酒之日記」再考」

第27回 平成9（1997）年11月4日

会場：松山市 道後やすらぎ荘

梶田 佳明「伊方杜氏について」

広谷喜十郎「土佐の酒造りの今昔」

森 正史「愛媛の酒の民族」

第28回 平成10（1998）年6月12日

会場：東京都 日本酒造組合中央会

蓼沼 誠「醸造試験所およびその周辺の歩み」

丸山 清明「酒米について」

鎌谷 親善「諸白について」

第29回 平成10（1998）年10月21日

会場：西宮市 酒ミュージアム

寺岡 武彦「所謂「灘の生一本」のこと」

鷺尾 三郎「灘の酒屋の年中行事」

柚木 学「明治前期の酒造業の動向と酒屋会議」

第30回 平成11（1999）年7月23日

会場：東京都 日本酒造組合中央会

古市 明紀「酒と浮世絵」

天野 武「酒器をめぐる民俗」

鎌谷 親善「酒と桶と樽」

第31回 平成11（1999）年11月9日

会場：神戸市 菊正宗酒造記念館

寺田 匡宏「水車精米について」

森 太郎「生酏解説」（VTR）

溝口 晴彦「生酏と段仕込みのからくり」

第 32 回 平成 12 (2000) 年 6 月 28 日

会場：東京都 日本酒造組合中央会酒情報館

大森 大陸「合成酒の歴史」

池田 明子「三浦仙太郎と吟醸という言葉」

藤原 隆男「明治維新政府と酒造業」

第 33 回 平成 12 (2000) 年 10 月 26 日

会場：盛岡市 大清水多賀別館

鈴木 宏延「最近の酒造業界について」

中山 繁喜「岩手県工業技術センターの研究内容について」

鎌谷 親善「日本酒造技術の変遷」

藤原 隆男「岩手県酒造技術の系譜」

第 34 回 平成 13 (2001) 年 6 月 9 日

会場：京都市 月桂冠 (株) 昭和蔵ホール

鎌谷 親善「伊丹の諸白づくり」

安岡重明／石川健次郎／上村雅洋／末永国紀／瀬岡誠「シンポジウム—歴史の中の酒」

第 35 回 平成 13 (2001) 年 10 月 19 日

会場：東京都 日本酒造組合中央会酒情報館

栗山 一秀「伏見の酒の歩み」

藤原 隆男「コルシエルトの大麦製日本酒醸造について」

鎌谷 親善「元禄期の酒造り—『本朝食鑑』と『和漢三才図会』について—7」

第 36 回 平成 14 (2002) 年 5 月 11 日

会場：名古屋市 愛知県産業貿易館

高部 淑子「知多半島の醸造業を支えた条件」

篠宮 雄二「尾張。三河における酒造業と鋳物業」

篠田 寿夫「全国酒造家大会名古屋開催の経緯」

山下 勝「中国、日本、東海地方の酒造技術史」

酒史学会大会における研究発表・講演の記録
平成 14 (2002) ～平成 24 (2012) 年

第 1 回大会 平成 14 (2002) 年 11 月 16 日

会場 東京都 文京シビックセンター

寺岡 武彦「酒嗜と酒器」

天野 武 「酒宴にまつわる民俗」

鎌谷 親善「『日本山海名産図会』と伊丹の酒」

第 2 回大会 平成 15 (2003) 年 10 月 25 日

会場 大阪市 大手前大学史学研究所

秋山 進午「中国江西省南昌李渡焼酎醸造遺跡について」

川口 宏海「西宮と伊丹の酒蔵発掘調査報告—釜場、搾り場について」

加藤慶一郎「明治・大正期における灘五郷の一側面—出造り酒造家を中心に」

川島 智生「醸造家と建築—四季醸造蔵の近代」

鎌谷 親善「『酒造手引草』と『酒造米手引』に見る伊丹の酒」

第 3 回大会 平成 16 (2004) 年 10 月 16 日

会場 東京都 東京農業大学

辻 誠一郎「日本における先史時代の酒造—課題と展望」

藤原 隆男「帰国後のコルシエルト」

井上 喬「日本におけるビールの歴史と世界における現況」

第 4 回大会 平成 17 (2005) 年 10 月 29 日

会場 東京都 東京大学

寺本 祐司「ローカルな穀物酒とその醗酵微生物について」

鎌谷 親善「日本酒造史の史料について」

南 良則「岐阜県白川村のどぶろく祭り」

高岡 祥夫「宮水に関する説話の検証」

第 5 回大会 平成 18 (2006) 年 12 月 9 日

会場 京都市 人間文化研究機構総合地球環境学研究所

寺本 祐司「吸酒管で飲む中東、東南アジア、アフリカの酒」

安溪 貴子「熱帯アフリカにおけるカビを用いた地酒づくり技法の比較」

青木 隆浩「近代の北関東地方における近江商人の酒造経営」

秦 洋二「清酒の機能性 “酒は百薬の長” を解明する」

第6回大会 平成19(2007)年12月8日

会場 東京都 東京大学

【対談】谷川章雄・辻誠一郎「考古学・民族植物学における酒史研究の展望」

岡崎 光雄「発芽玄米酒の開発と温故知新」

第7回大会 平成20(2008)年9月23日

会場 東京都 東京大学

小田 静夫「泡盛の文化史」

西谷 尚道「日本の焼酎—その税制と技術史について」

福與 伸二「日本におけるウイスキーの歴史」

第8回大会 平成21(2009)年9月19日

会場 東京都 東京大学

小泉 龍人「西アジアにおけるワインの起源」

伊藤 善資「中世の酒米—『田植草紙』と初穂信仰」

秋山 裕一「醸造試験場初代技師 肥田密三氏をめぐる人間関係—高峰讓吉と高山勘太郎—」

第9回大会 平成22(2010)年9月25日

会場 東京都 文京シビックセンター

寺本 祐司「ハチミツ酒について」

村上 満「森鷗外とドイツビール—なぜ明治の先輩達はエールでなくラガーを選んだのか—」

第10回大会 平成23(2011)年11月26日

会場 京都市 京都大学

高宮いづみ「古代エジプトのビール」

副島 顕子「酒米の育種と系譜」

溝口 晴彦「生酏の近代史」

第11回大会 平成24(2012)年11月17日

会場 柏市 東京大学柏キャンパス

蔵持不三也「ワインの民族史」

三鍋 昌春「日本ウイスキーの起源『スコッチウイスキー』の誕生と進化」

河井 敬司「日本ウイスキー90年の歴史」

歴代役員名簿 (太字は現職、*は推定、**は就退任時期不詳)

【顧問】

坂口謹一郎 昭和 58 年 11 月～平成 6 年 12 月
片桐 英郎 昭和 58 年 11 月～昭和 62 年 9 月

【会長】

蓑田 泰治 昭和 58 年 11 月～昭和 63 年 5 月
野白喜久雄 昭和 63 年 5 月～平成 14 年 4 月
鎌谷 親善 平成 14 年 11 月～平成 18 年 12 月
兒玉 徹 平成 18 年 12 月～

【副会長】

野白喜久雄 昭和 58 年 11 月～昭和 63 年 5 月
柚木 学 昭和 58 年 11 月～平成 13 年 10 月*
矢野 圭司 昭和 63 年 5 月～ **

【理事】

加藤 百一 昭和 58 年 11 月～平成 14 年 11 月 (常任理事：全期間)
森 太郎 昭和 58 年 11 月～平成 16 年 3 月
栗山 一秀 昭和 58 年 11 月～平成 14 年 11 月
高原 義昌 昭和 58 年 11 月～平成 14 年 11 月 (監事へ異動)
鎌谷 親善 昭和 58 年 11 月～平成 18 年 12 月 (常任理事：昭和 58 年 11 月～平成 14 年 11 月)
天野 武 昭和 58 年 11 月～平成 15 年 9 月 (常任理事：平成 14 年 11 月～平成 15 年 9 月)
村上 英也 ** (監事から異動)～昭和 63 年 5 月
秋山 裕一 ** (監事から異動)～平成 14 年 11 月
高岡 祥夫 ** ～平成 18 年 12 月
藤原 隆男 ** ～平成 22 年 9 月
山下 勝 ** ～平成 19 年 7 月
篠田 壽夫 平成 14 年 11 月～平成 18 年 12 月
兒玉 徹 平成 16 年 4 月～ (会長：平成 18 年 12 月～)
辻 誠一郎 平成 16 年 10 月～ (常任理事：平成 18 年 12 月～平成 24 年 11 月)
原澤 謹吾 平成 16 年 10 月～ (常任理事：平成 24 年 11 月～)
一島 英治 平成 18 年 12 月～平成 20 年 9 月
秋田 修 平成 20 年 9 月～ (副会長：平成 24 年 11 月～)
江口 誠一 平成 22 年 9 月～
谷川 章 平成 22 年 9 月～

【監事】

村上 英也 昭和 58 年 11 月～ ** (理事へ異動)
秋山 裕一 昭和 58 年 11 月～ ** (理事へ異動)
田中 利雄 昭和 63 年 5 月～ **
高原 義昌 平成 14 年 11 月～平成 23 年 11 月
原田 倫夫 平成 23 年 11 月～

歴代『酒史研究』編集委員名簿 (太字は現職)

天野 武 第 1 号 (昭和 59 年 6 月) ～第 19 号 (平成 15 年 3 月)
加藤 百一 第 1 号 (同) ～第 18 号 (平成 14 年 2 月)
鎌谷 親善 第 1 号 (同) ～第 23 号 (平成 18 年 7 月)
野白喜久雄 第 1 号 (同) ～第 5 号 (昭和 62 年 5 月)
柚木 学 第 1 号 (同) ～第 18 号 (平成 14 年 2 月)
藤原 隆男 第 19 号 (平成 15 年 3 月) ～第 23 号 (平成 18 年 7 月)
辻 誠一郎 第 21 号 (平成 17 年 3 月) ～
山下 勝 第 21 号 (同) ～第 23 号 (平成 18 年 7 月)
原澤 謹吾 第 24 号 (平成 20 年 2 月) ～第 26 号 (平成 22 年 10 月)
秋田 修 第 28 号 (平成 24 年 9 月) ～